

Q. 帰国生に対する入学後のクラス配置・授業体制は一般生(国内生)と異なっていますか。

A. 帰国生と一般生(国内生)の区別はしていませんが、それぞれがよい刺激をシェアすることでクラス全体の底上げを目指しています。学校として英語に力を入れており、放課後プログラムとして、中学1年生～中学3年生には英会話クラスを設置しています。また、希望者を対象とした国内外の語学研修も充実しています。

Q. 帰国生に対する英語の授業は一般生(国内生)と異なっていますか。

A. 今年度より、帰国生入試・英語コミュニケーションスキル入試で入学した生徒には英語取り出し授業を実施しており、初学者とは一線を画した授業を展開しています。また放課後プログラムには、英会話クラス、英語検定講座、TOEIC 講座があり、さまざまなニーズに応じていく環境を整えています。

Q. 帰国生に対してキャッチアップとしての補習授業を行っていますか。

A. 帰国生、一般生(国内生)問わず、中学生は7限目をティームティーチングによる「中学補習」としています。(英・数・国、各考查後20名程度を指名、実施)きめ細やかな指導にあたるので「どこでつまづいているのか」「わからない原因はどこにあるのか」「どのように勉強すれば改善されるのか」を考えながら、じっくり時間をかけて苦手な教科を克服することができます。

Q. 入学した帰国生を指導する上でもっとも気をつけていることは何ですか。

A. 帰国生の皆さんは、今までとは異なった環境で生活することになりますので、跡見学園の環境にまずは慣れていただけるように、教科指導、生活指導の両面で生徒とコミュニケーションをとりながらサポートしていくことに気をつけています。年2回、全校をあげて面談を実施しています。まずはコミュニケーション、跡見学園でよいスタートがされるように何でもお話してください。

Q. 帰国生が貴校に入学するにあたって、事前にしっかり認識しておいてほしいことは何ですか。

A. 跡見学園では「本物に触れ豊かな心を育てる」をテーマに、たくさん行事や校外授業があります。海外で経験し学んだことを生かす場面がたくさんありますので、自ら存分に力を発揮してください。

Q. 帰国生に望む「海外で学んできてほしいこと」は何ですか。

A. それぞれの国の風土や文化を身をもって存分に感じていただくことはもちろんのこと、海外だから起こりうるいろいろな困難を経験し乗り越えてきていただきたいと思えます。その経験は今後の日本での生活に大きく役立ちます。

Q. 帰国生やそのご家族に伝えたいことがあればお書きください。

A. 中学に入ったら、一般生に遅れをとるのではないかとという質問をよく受けます。跡見学園では、授業少人数制、7限補習、全校一斉面談の実施など、きめ細やかな指導をして参りますので、安心してお越しください。

Q. これまで受け入れてきた帰国生を見て、帰国生のもっともすばらしいと思われる点はどのような点ですか。

A. グローバルな視点をもっており、周りの人とコミュニケーションをうまく取りながら物事を進めていける点です。跡見学園では行事が多く、生徒が力を合わせていかなければなりません。そんな中、皆をまとめたり運営していく場面で、独特のよい雰囲気作りができるのが帰国生のすばらしいところ。海外で培われた経験が自然と発揮されて、周りの生徒にも大変よい影響を及ぼしていると思えます。

Q. 帰国生が貴校に入学するにあたって、必ず喜んでもらえるようなことは何ですか。

A. 跡見学園は、跡見花蹊(あとみかけい)によって明治8年に創立されました。日本人による初の私立女子校です。授業には「習字・書道」があります。中学から「跡見流」をお手本に基本点画や仮名の機微を学びます。「跡見流」は、書家としても知られる学祖・跡見花蹊(あとみかけい)の書風です。丸みを帯びた優しい形の中にも強さや厳しさを秘めた迫力のある書風には、花蹊の精神が息づいています。また、学園の施設の一つに作法室があります。作法を学ぶ機会もありますので、卒業までに自然と作法が身につきます。さらに、放課後プログラムでは茶道・華道・箏曲のお稽古もできます。海外では経験のできない日本の伝統文化を肌で感じてみてはいかがでしょうか。

Q. 帰国生に対しての具体的な受験準備のアドバイスをお願いします。

A. 出願条件は、原則として、海外在住期間が1年以上かつ帰国後3年以内の方で、入学後、父母のいずれかが保護者として国内に居住できる方です。帰国生入試では、国語・算数・作文・保護者同伴面接にて可否を決定します。学科試験は基礎学力を問う問題です。ぜひ多くの帰国生にチャレンジしてほしいと思っています。